

平成25年度第1回平塚市博物館協議会会議録

■開催日時

平成25年5月10日（金）10時～11時

■開催場所

平塚市博物館特別研究室

■会議出席者（敬称略）

会 長 牧野久実

副会長 宮川重信

委 員 石綿進一、猪俣秀、熊澤武彦、椿田有希子

事務局 澤村館長、縣館長代理（管理担当長）、栗山主管（学芸担当長）

■会議の概要

1 開 会

館長挨拶

学芸担当長挨拶

新採用職員紹介

2 議 事

(1) 報告事項等について

- ・「こどもフェスタ2013」について
- ・春期特別展「天の川銀河によろこそ」の開催結果について

(2) 今後の事業計画について

(3) その他

- ・市史編さん協議会の解散と今後の対応について
- ・事務連絡等

■議事および質疑

議題(1) 報告事項等の「こどもフェスタ2013」について、事務局栗山学芸担当長から協議会説明資料により説明。

委 員 ご苦労様です。「昔のこども遊び」ですが、165名の参加ということですが、私たちには具体的な内容が分からないのですが、アンケートで「面白かった」というのが5名、「少し面白かった」が3名、というのはどういうことなのか教えていただければ。

事務局 「昔のこども遊び」として、竹馬・コマ回し・ベーゴマ・マリ突き・お手玉・アヤ取りといったラインアップで行いました。子供さんたちは、その場では非常に楽しんでいただけたのですが、不満そうなお子さんというのは、最終的に「コマが回らなかった」「竹馬に乗れなかった」という子供さんが残念そうな顔をしているのは見受けられました。そうしたところが数字に出ているのかなという気がします。

委 員 自由意見で「来年は午前中から参加します」とか「また遊びに来たい」と書いてあって、普段利用しないような潜在的な方々の掘り起こしにつながっているのかなという感じを持ちました。イベントが増えたということもあるのですが、それにしても入館者数も増えていきますし、イベント参加者数も増えているということで、今年何か新たにPR方法を変えたとか、新しい媒体に載せたとか、そうしたことをなされたのでしょうか。

事務局 媒体としては、常日頃の博物館行事のアンケートでも、圧倒的に『広報ひらつか』で知ったという意見が多くて、その次に最近ではHPが多いようです。ですので『広報ひらつか』にはできるだけ詳しく載せてほしいと常日頃お願いをしているところです。今年度、特に気をつけたことは、ローカル紙やタウン紙、『タウンニュース』や『湘南ジャーナル』などにしっかり載せてもらおうと考えました。そうしたところは毎日出ている

新聞ではないので締め切りが早いため、イベントに十分間に合うように記者発表を早めにしたということが、今回気を使ったことです。

委員 寒川文書館でも『タウンニュース』をご覧になったというお客さんが圧倒的に多くて、そういうローカル紙の影響があるということを感じていましたので、何かそういうことをなさったのかなとお伺いした次第です。

事務局 今回ローカル紙の取材が非常に多かったこと、増えてきていることの一部には、ヤフーのHPのトップページの地域情報欄に、博物館で“こどもフェスタ”をやりますよ、というのが出まして、それで「ヤフーで見ました」という問い合わせが事務室に結構かかってきました。一般的な大きなところにポンと出ると違うのかなと思いました。

委員 ネット情報というのは大きいですね。関連してですが、平塚市博物館のHPでは何人ぐらいが見ているかというカウンターはありますか。

事務局 カウンターの出るHPもありますが、館のHP上でカウンターは見えませんが、サーバーでカウントしています。

委員 やはり増えていきますか。

事務局 カウンター自体は、それほど数の上下動はないです。イベント情報を見る方と内容的なものを見る方と、かなりありますので、特にイベントに対してカウンターの大きな振れというのはないです。

委員 イベントの中でちょっと異質なのかなと思うもので「昔の音楽を聞こう」というものがありまして、ほかのイベントは結構体験ができて、プラネタリウムは見るだけ、音楽も聞くだけですが、この「昔の音楽」というのは笙・箏・箏・箏というようなものですか。

事務局 これはタイトルだけではちょっと説明不足でした。民俗資料として入っている手回し式蓄音機で当時のレコード盤を民家の場所で流すということで、曲を聞くだけではなくて、流している蓄音機の状況も見てもらうということで開催しました。

委員 聞くだけではなくて、見ることができたのですね。

事務局 はい。これは、展示解説ボランティアの皆さんに、民家の座敷で手回しでやっていただきました。

委員 お子さんにとっては珍しいもので、見たことがないですよ。

事務局 親御さんの世代でも見たことがないですよ。

議題(1) 報告事項等の春期特別展「天の川銀河によこそ」について、事務局栗山学芸担当長から協議会説明資料により説明。

委員 いつもの特別展に比べて、1万1422名という入館者数はどうだったでしょうか。

事務局 入館者数は、特別展期間に受付の前を通ったカウントで示しています。全部平均して253名と言いますと、土日と平日で上下動があると思いますが、特別展の無い時期に比べれば多いと思いますが、この前の冬の特別展と比べ、合計数はだいたい同じくらいかと思えます。

委員 ご説明の中で非常に印象に残ったのですが、アンケートで「難しい」というのがありまして、着目されているようにご苦労されていると思いますが、私もこの前3月22日に特別展のご説明を受けて感動したのですが、見る人によって“宇宙は神秘の世界”ということで、学芸員さんの専門との駆け引きがありますから、難しいのは仕方ないと思えます。ただ子供たちが宇宙に興味を持つということが大事だと思えます。自由意見の中で「写真が素晴らしい」、「宇宙が長く広いんだと思いました」とあるのは、この印象だけですごくいいことだと思います。小さい時に印象づけることができ、ずっと頭に残っていくということで、「難しかった」とアンケートに出ています。学芸員さんの専門の難しいことを、どのように易しく説明するかということ、「難しい」という問題に着目することが大事なことだと思います。分かりやすくということ、ぜひこれからも努力してほしいと思えます。

委員 8割が「非常に面白い」というのはすごいですね。

委員 自由意見については、五割ぐらいの十代の方がほとんどですか。

事務局 そうですね。

議題(2) 今後の事業計画の「夏期特別展 真田・北金目遺跡群」について、事務局栗山学芸担当長から協議会説明資料により説明。

委員 一か月半ぐらいではもったいないような内容ですね。

事務局 そう思います。

委員 何万点もある資料の中から1000点から1500点を抽出するのに、あらかじめ見れば「こっちな」とすぐ分かるものなのか、それとも「どれにしようか」というようなものなのでしょう。

事務局 17年間、足かけ18年間、現場にずっと張り付いてきた社会教育課の若林学芸員が全てを見ています。ほかの学芸員は、私も一時期いましたが、2年とか数年間単位で現場に関わっていますが、やはり最初から最後までずっと見てきた人間でなければ分からないという部分があります。その若林学芸員が中心になって、この資料、この資料と抽出して、それを私も含めて社会教育課の学芸員がサポートして、実際に収蔵施設から出してくるという作業を進めています。

委員 金目公民館は他の館と比べて、入り口に展示スペースが唯一ありまして、私が1か月に1回ぐらい行きますと、金目の史跡の資料など、何らかの展示をしているので、今回、特に真田・北金目ですので、そうしたところで金目公民館の協力や利用などを考えていますか。

事務局 実はこのあと、今年度の春の特別展では、金目エコミュージアムと博物館が協働で行うということで、もう現在から常日頃、エコミュージアムと連携を図りながら、特別展の準備も進めているところです。エコミュージアムの歴史部会の方などは特に熱心ですから、いずれ、こうした資料を金目公民館で展示するなど、そうした話も出てこようかと思えます。これまでもすでに社会教育課とエコミュージアムや金目公民館との連携で、一部展示をしたこともありますので、そうした協力体制は今後もずっと続いていくと思えます。ただし基本的に、この夏の特別展で公開する資料は社会教育課が所有している資料ということになります。我々が借りて展示するという立場ですから、その資料の他のイベントへの供出ということについては、社会教育課と検討していかなければならないと思えます。

委員 「地域の歴史を探る」のところで中世で終わっているようなのですが、近世以降をなさらないのは何か理由があるのでしょうか。

事務局 近世の資料も出ていますので、この案の中では中世でも真田城に絞っていますが、最後のところでは中世並びに近世という形の意味合いになってくると思えます。

委員 素晴らしい内容だと思うのですが、準備段階からいろいろなイベントができそうですね。

事務局 はい。ただ、今は準備で必死です。

委員 準備することそのものが物凄く面白そうだと思います。先ほどのように資料をピックアップするところからもいろいろなことができそうですね。社会教育課の方は若林さんを始め、何名くらいが、これにお手伝いくださるのでしょうか。

事務局 今、社会教育課で考古学担当の学芸員が6名います。市内の埋蔵文化財の調整等もありますので、そのうち主に4名が準備に関わっています。

委員 その方々は「地域の歴史を探る」のそれぞれの時代のご専門ですか。

事務局 そうですね。図録の原稿についても時代ごとに分担して進めています。

委員 展示が始まった後もそれぞれの方が詳しく説明してくださるのでしょうか。

事務局 展示解説は今、仮に2日間入っていますが、これはもっと増やしたほうがいいかなと思っています。また、それぞれ説明をしていただくか、私が勉強して全部説明するか、検討していきたいと思えます。

委員 ずっと通して携わってきた方がおられるというのはいいですね。ぜひ子供たちに分かりやすい形で展示をされると良いと思えます。楽しみにしています。ありがとうございます。

議題(3) その他の「市史編さん協議会の解散と今後の対応」について、澤村館長から協議会説明資料により説明。

委員
事務局 『市史』はもう全巻刊行されたということですか。
その刊行のスケジュールが立ったということになります。市史編さん協議会で主に協議していく必要がある議題として、市史刊行のスケジュール、手順・段取りということで、第何巻まで終了というスケジュールが協議し終わったということになります。

委員
事務局 今実際にもう何巻まで出ていますか。あと何巻ですか。
現在12巻出ていまして、13巻目が来年度に発行予定です。その後あと2つスケジュールとして残っています。

委員
事務局 あと何が残っているのですか。
来年度に社寺について刊行予定で、社寺の続編と年表が予定されています。

委員
事務局 市史編さん担当は特に今年度縮小になったということはあるのでしょうか。
体制は昨年度と変わっていません。

委員
事務局 刊行が終わった後、市史編さん担当はどのようになるのですか。
それについては機構上のことなので、博物館独自が考えることではありませんし、昨年度、市の機構を司る部局と話し合ったのですが、継続して話して行くということになっています。

議題(3) その他

委員 情報発信の方法としていろいろあると思いますが、先ほどの『タウンニュース』など、市民の情報として良く読まれていると実感しています。地元の中原では、市のふるさと再生事業で徳川家康の権現祭・鷹狩行列などを十数年行ってきましたが、今年は中止になりました。こうした地域の行事は、やめることはいつでもできますが、どう継続するかが大事だと思います。地域の歴史を伝えるためのイベントなどの情報を地域からも発信していきたいと思います。

議題(3) その他

事務局により次回日程の調整。次回日程は9月4日(水)10時を予定。

以上